

# Car Goods Magazine

[カー用品専科・月刊誌]

カーシェードのススメ

STOP! 駐車時高温

[カーグッズマガジン]

Since 1999

www.cargoodsmagazine.co.jp



2023  
8  
August  
定価 660yen  
(税込み)  
2023年6月16日発売  
(毎月17日発売)

## ひと足お先に、クルマ旅準備。

[巻頭特集]

出先で生きる  
レジャー  
グッズ大全

### お出掛け 旅GOODS アシスタンス

- ルーフテント
- クーラー
- 冷蔵庫
- バッテリー
- 収納
- ファン
- 消臭
- 防水
- 仮眠
- リモート



# 待って 夏休み 休んで みる!

ホントに  
知ってる?

おさらい&予習

今どきデジタルカーライフ

## カー電の現在地



レコーダー  
カメラ  
ナビ  
オーディオ

レーザー  
ガジェット  
メーター  
トラッカー





最新のレーザー&レーダー探知機は、多くの情報を内蔵しておりとても頼もしい。その反面、警報が頻繁にあり煩わしいと感じている方もいるだろう。そんな悩みにバッチリ応えてくれるのが、フルオート機能を搭載したブリッツのレーザー&レーダー探知機『Touch-LASER』シリーズの2023年モデルだ。

## レーザーディテクター

TEST Model #4

# BLITZ Touch-LASER

フルオート1なら重要な警報以外の音声をほぼカット!



### スクールエリアや冠水エリアではLEDがグリーンに点滅

今回のテストケースでは、オート1・2ともに警報は鳴らなかったものの、荒い運転と判断した場合には警報が増え、セーフティドライブを促してくれる。



### 事故多发点ではLEDがオレンジに点滅

事故多发点や交番、消防署、駐車監視エリア等に近づく、オレンジのLEDが点滅して注意喚起する。オート2では警報も同時鳴るようだ。



### 取締ポイントではLEDがレッドに点滅

実際に取締が行われているときや、重点取締ポイントなどくに注意が必要な場所ではレッドにLEDが点滅して注意喚起する。取締が行われていれば、警報も同時に鳴る。

昨年夏に登場し、高機能かつリーズナブルプライスなことから注目されている、ブリッツのレーザー&レーダー探知機『タッチレーザー』シリーズ。早くも新機能を搭載した2023年モデルが登場した。

2023年モデルは、2022年モデルの高い探知性能はそのままに、新たな機能が搭載されている。それは、新開発のフルオート機能だ。『タッチレーザー』シリーズは、多くの情報を搭載している。そして、走行時にすべての情報を警報するとなると、頻繁

## 新機能搭載でより便利な2023年モデル

に警報が鳴り続ける可能性がある。もちろん、とても安心ともいえるのだが、いつも走る勝手知ったるルートでは、ちょっと煩わしく感じることもあるに違いない。

そこで、ブリッツならではの電子チューニングのノウハウを活かし、速度や加速Gなどの情報をもとに独自アルゴリズムで、状況に応じて不要な警報をカット。そのときに必要な情報だけを提示する「フルオート機能」を搭載したので。これにより、警報による騒がしさを大幅に軽減可能となった。この新機能を搭載しながら、2022モデルから価格は据え置きというからうれしい。



### 簡単にできる機能設定

フルオートの切り替えは、タッチパネルのディスプレイを長押しするとメインメニューになるので、機能設定を選択する。



機能設定を開くと、オート1/オート2/オールオン/マニュアルから設定の選択が可能。

フルオート設定にすれば、個別に変更する必要は一切ない。オート1は『AU1』とディスプレイの下部に表示される。



## コストパフォーマンスが高い スタンダードモデル



BLITZ  
**Touch-LASER  
TL312R**  
価格：3万6300円

ブリッツの2023年モデル・レーザー&レーダー探知機、『Touch-LASER』シリーズの3.1インチワンボディ・スタンダードモデル。GPSデータ21万件以上。取り締まりデータ7.8万件以上。バンド受信数18バンド。受信衛星数78基。GPS警報ポイントデータ完全無料提供といった優れた基本性能は昨年モデルそのままに、フルオート機能を新搭載。走行速度や加速Gなどの状況に応じ不要な情報を自動でカットすることで、警報による車内の騒がしさを軽減している点が特徴。ディスプレイ部と受信部を分離したセパレートタイプのTL312S(4万6200円/7月中旬発売予定)や、2.4インチ液晶採用のコンパクトモデルのTL242R(2万6400円)、4インチディスプレイを採用した最上位モデルのTL402R(4万1800円)もある。



ディスプレイの待機画面は11種類の表示パターンから選択可能。さらに、明るさ、警報音量など多くの設定を好みで変更できる。



スピードや標高、コンパスといった自車位置データはGPSにより得るため、GPS信号がないとGPS警報ポイントも正確に警報できない。車種によっては車両のデータをOBD IIより取得可能。自車位置が途切れなくなるだけでなく、純正メーターで表示されない車両情報が詳細に確認可能。TL312RとOBDIIアダプターのセット(4万4000円/6月23日発売予定)がおすすめ。

## オート1では 警報音がほぼ鳴らなくなる

早速、新機能である「フルオート」の効果をも、全警報の「オールオン」と比較チェックしてみた。テストに使用したのは、スタンダードモデルの『TL312R』だ。

ちなみに「フルオート」には「オート1」と「オート2」の2種類があり、1は速度取り締まりに特化したモードで最小限の警報のみ。2は、1より多少警報の頻度が増えるという。比較は市街地に1周約5kmのコースを設定し、同一コースにおいてそれぞれ

のモードで何回警報が鳴るかでチェックしてみた。

まずは「オールオン」をチェック。走り出してすぐに、交通取り締まりポイントの警報が鳴る。さらに、交番や消防署、駐車監視エリアなどを次々に警報。1周で計16回ほど、約1分に1回の警報があった。これは、予想よりも多くない感じ。このくらいの警報数であれば、個人的にはうるさいと思わなかった。毎回通るルートだとしても、ちよつとうるさいと思う程度だろう。また、夜間だったせいかスクリーンエリアを通っても警報がなかった。次に「オート1」をチェック。「オー

ルオン」では警報が鳴った初めの交通取り締まりポイントでは、赤いLEDが点滅するも警報はなし。その後もLEDが黄色や赤に点滅して注意喚起するが、速度や加減速度度合による警報の数は変わるものの、テスト時は1度も警報は鳴らずに周回終了。ちゃんと作動しているか少し不安に感じるものの、静かだ。

最後に「オート2」をチェック。まず交通取り締まりポイントの警報が鳴る。さらに、交番と警察署がある警報が鳴った。しかし、その他の警報はなく1周で4回鳴っただけ。『オールオン』の1/4の警報だ。このくらい

の回数であれば、うるさいと感じることとはなく、また、ちゃんと作動している感もあって安心できた。

正直言うと、短時間の使用では個人的には『オールオン』でもうるさいと思わなかった。とくに初めての道では安心するに違いない。ただ頻繁に使う道では、『フルオート』は静かだ。警報が鳴らなくてもLED点滅で注意喚起はしてくれるし、もし速度取り締まりが行われていた場合は警報が鳴るから安心だ。『フルオート』は走り方や速度によって警報パターンは変化する。走行状況に合わせて好みで設定して使用するといいたいだろう。